

乳がんの手術

センチネルリンパ節生検

乳房温存手術+センチネルリンパ節生検を施行し、転移2個までの症例では、リンパ節郭清を省略しています。

(※症例によっては省略しない場合もあり)

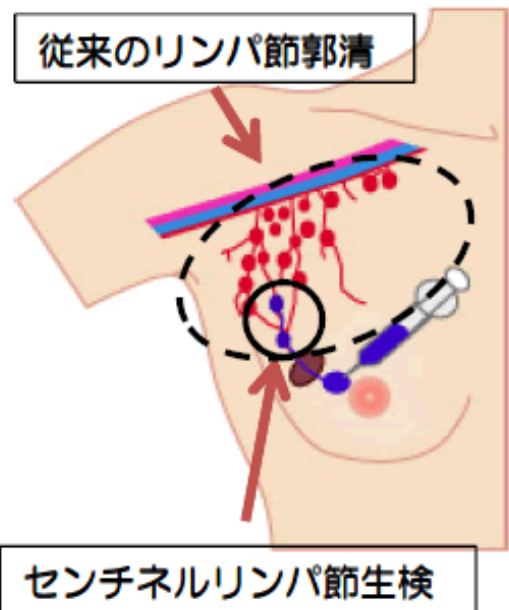
乳がんは一番最初に脇のリンパ節に転移するといわれています。つい数年前までは脇のリンパ節を全て掃除する「腋窩リンパ節郭清術」が行われていました。

しかし術後の様々な後遺症が問題となり、現在ではリンパ節転移がないと予想される症例に対しては一番最初に転移すると考えられるセンチネルリンパ節を特殊な薬液を注入して探す、「センチネルリンパ節生検」が標準治療となっています。

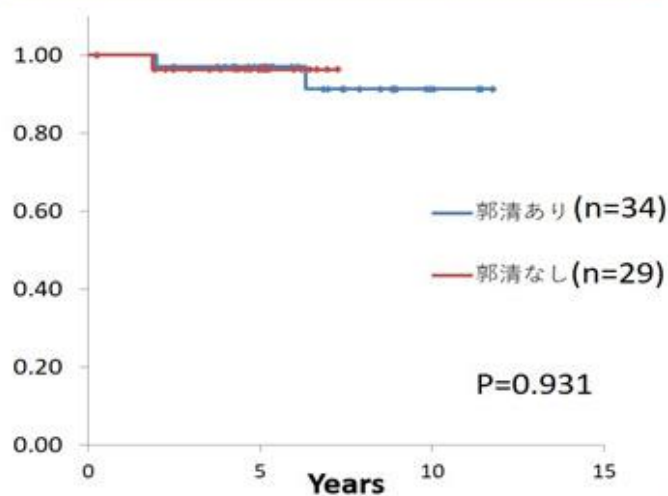
最近の研究で、乳房温存手術症例において、センチネルリンパ節2個までの転移であれば、腋窩リンパ節郭清を追加しなくても再発率や生存率に影響しない症例があることがわかりました。

当科のセンチネルリンパ節陽性症例でも、その試験と同様に、郭清有無に関わらず生存率は同等でした。

(下図)



当院のセンチネルリンパ節転移症例における郭清有無による全生存率 (2005-2016年)



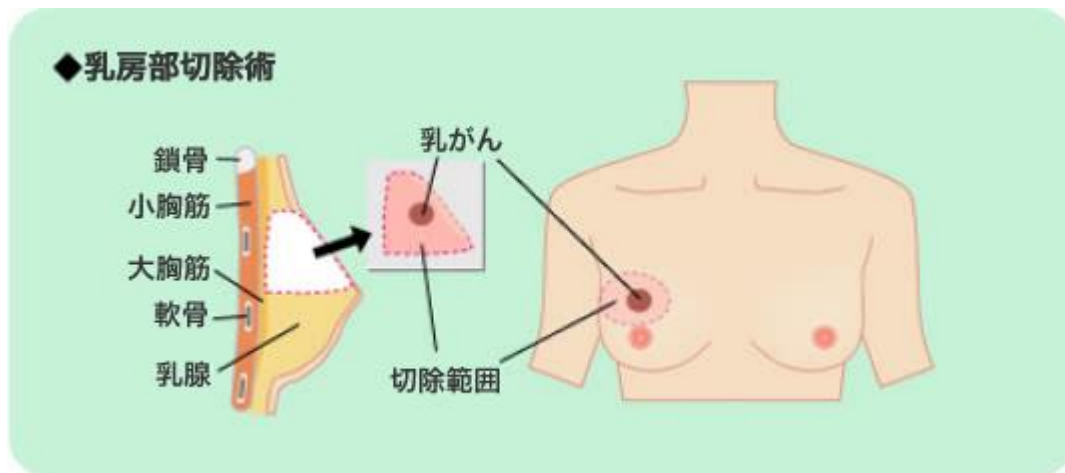
蛍光を発するセンチネルリンパ節

ICG蛍光法によるセンチネルリンパ節生検 (当科の成績)

- 同定率 (リンパ節を見つけられる確率)
- 手術先行の症例: 99.1%
- 術前化学療法後の症例: 97.2%

乳房温存術

がんの大きさが小さく、乳頭への浸潤がないと予想される場合に行われます。
ほとんどの場合術後に放射線治療が必要になりますが、おこなわない場合もあります。



乳房切除術

がんの大きさが大きい場合、多発している場合、乳頭の近くまで浸潤している場合に行います。

